

化石研 ニュース

No.127 2016/10/21

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第146回 化石研究会例会

(於 滋賀県立琵琶湖博物館[滋賀県草津市])

のお知らせ

下記のとおり、第146回化石研究会例会を開催いたします。今回の会場は、開館20周年を迎え、一部リニューアルされた展示内容がテレビでも紹介された滋賀県立琵琶湖博物館です。多くの方のご参加をお待ちしております。なお、参加費は無料です。

- 日時：2016年11月20日(日) 13:30~17:00
- 会場：滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県草津市下物町）・セミナー室
[世話人：高橋啓一会員（滋賀県立琵琶湖博物館）]
- 内容：テーマ「琵琶湖とその生物相のおいたち」

琵琶湖は400万年の歴史を持つ湖です。近年、琵琶湖の生い立ちやそこに棲む生き物についての新知見が報告されています。この講演会では、最新の成果をそれぞれの専門家にお話しいただきます。また、琵琶湖博物館は7月14日に第1期の展示リニューアルが終了し、一部の展示が新しくなりました。この機会に是非ご覧ください。

(プログラム)

会長挨拶、趣旨説明

講演1 琵琶湖の新たな地史を探る - 水系の変化をどう読み解くか
(里口保文 滋賀県立琵琶湖博物館)

講演2 琵琶湖の魚類の生い立ち - 分子データからのアプローチ
(渡辺勝敏 京都大学大学院理学研究科)

休憩

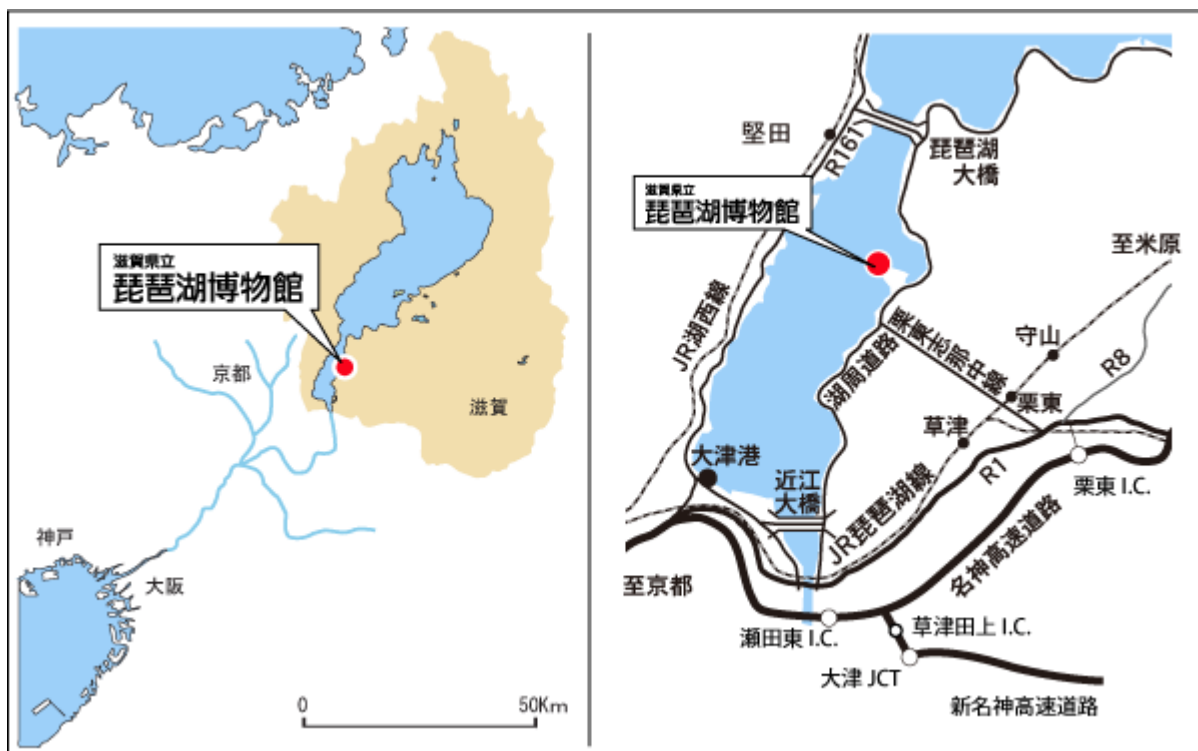
講演3 古琵琶湖層群と東海層群の足跡化石からみた鮮新 - 更新世の動物相
(岡村喜明 滋賀県足跡化石研究会)

講演4 植物相からみた古琵琶湖の動物たちが生きた環境
(山川千代美 滋賀県立琵琶湖博物館)

※ (講演30分、質疑10分)

*講演会終了後、バスで草津駅に移動し、17:30頃から懇親会を開催します。

[会場までの地図]



<鉄道とバス>

- JR 琵琶湖線草津駅下車。（草津までは、JR 琵琶湖線新快速、京都から約 20 分、米原から約 20 分）
- 草津駅西口から、近江鉄道バス、烏丸下物線「琵琶湖博物館」行き乗車、琵琶湖博物館前下車。（バス所要時間約 25 分）
- *交通案内は琵琶湖博物館のホームページ <http://www.lbm.go.jp/> からもご覧いただけます。
- *草津駅から博物館へのバスは本数があまりありません。講演会へのご参加は、草津駅西口 12:45 発 (13:09 着) のバス (琵琶湖博物館行) にご乗車ください。

運営委員会について

運営委員会にご参加の方は、20日の12:00~13:15まで応接室で行います。運営委員、事務局の方々はお集まりください。

(草津駅西口11:25分発のバス(琵琶湖博物館行)に乗車してください。)

>>> 第34回総会・学術大会報告 <<<

化石研究会第34回総会・学術大会が、2016年6月11日・12日の日程で、早稲田大学（早稲田キャンパス）で開催されました。参加人数は65名に上り、2日間で、シンポジウム講演6件、さらに一般講演では、口頭発表8件、ポスター発表1件の研究発表が行われました。

初日のシンポジウム『カメ類の起源と進化を考える』では、倉谷滋氏（理化学研究所）による「カメを作った発生プログラムの進化」、平山廉氏（早稲田大学）の「化石記録から見てきたカメ類の起源」と吉田将崇氏（東京大学・院）の「化石曲頸類の多様性と海生適応」（図1）が、休憩を挟んだ後



図1. シンポジウム講演を行う吉田将崇氏

は、高橋亮雄氏（岡山理科大学）による「琉球列島の更新世カメ類化石が示す大量絶滅と動物地理」と中島保寿氏（東京大学）の「カメの進化と四肢骨の微小解剖学」の講演が行われ、発生学、古生物学、組織学などの異なる分野からの視点を通じて、カメ類の進化について、触れることができました。シンポジウムには、一般参加者も多く、カメ類の研究への関心の高さが伺えました。また、シンポジウム講演後には、総合討論の時間が設けられ、参加者を交えた議論が活発に行われました。

総合討論終了後は、別会場にて、化石および現生カメ類の観察会が開かれました。観察会の会場である早稲田大学の教室には、テーブル一面にカメ類の標本が並べられ、それらを、平山廉氏の解説付きで観察することができました（図2）。シンポジウム同様、観察会にも多くの参加者が集い、会場に入れず廊下から観察を行う参加者が出る程の大盛況となりました。懇親会は、早稲田大学近辺にある老舗の洋風レストラン「高田牧舎」で開催され、参加者は、親睦を深めました。

二日目の午前の部では、3件の口頭発表が行われました。西岡祐一郎氏（早稲田大学）ほかによる「早稲田大学直良信夫コレクションの第四紀陸生哺乳類化石（予報）」では、早稲田大学本庄考古資料館に所蔵されている哺乳類化石について、それらの重要性を示すと共に、今後の研究方針について報告されました。

午後の部では、口頭発表が行われていた会場の外で、藪田哲平氏（福井県立恐竜博物館）・平山廉氏による



図2. カメ類の観察会で解説を行う平山廉氏

「日本の前期白亜紀スポン上科カメ類とその初期進化」のポスター発表が行われました。その後、口頭発表が3件、さらに休憩を挟み、2件行われました。鶴野光氏（農研機構）による「歯エナメル質の炭素・酸素同位体比に基づく古生態復元」では、中生代試料を用いた同位体による古生態復元の研究例や、実際にモロッコ産モササウルスの試料を用いて行われた同位体分析についてなどの発表が行われました。

シンポジウム講演では、カメ類の進化を理解する上で重要な多方面の手法を学ぶ機会を得ることができ、また総合討論では、それらの研究の最前線で活躍する研究者による熱い議論の場に遭遇することができたため、多くの刺激をもらいました。

（文 武川 愛／写真 石田吉明）

>>> 第35回総会・学術大会のお知らせ <<<

2017(平成29)年・春に「福井県立恐竜博物館」で開催予定です。

詳細については決まり次第、化石研ホームページ、ニュース次号でお知らせします。

>>> 事務局だより <<<

- 新入会員（2016.4～）・・・4名（田中敏明、大倉正敏、小田 隆、高尾将矢）
- 武川愛会員には、総会・学術大会の参加報告を執筆していただきました。ありがとうございました。
- 「2016年度会費」が未納の方は納入をお願いします。当会の年会費は前納となっております。年会費 一般4000円（学生2000円） 郵便振替00100-7-633288 化石研究会
※ 納入状況は、会誌発送封筒の宛名ラベルでご確認ください。2015年以前の会費が未納となっている方は、2016年分とあわせて納入してください。3年間会費未納の会員は除籍となります。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ホームページ <http://geokasekiken.jp>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名 称 化石研究会（カセキケンキュウカイ）

年 会 費 一般4000円（学生2000円）

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のホームページでも見るすることができます。現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。